

## 農地の面的集積に向けた取り組み方式

わが国の水田農業は、農業労働力の高齢化の進展等から農地の貸付希望が増加し、水田作の経営規模拡大が進展しています。しかし、そこでの規模拡大は分散した圃場条件での農地集積のため規模拡大の効果が十分に現れてはいません。よって、作業効率向上やコスト低減に向けては、農地の面的集積が重要な課題です。そこで、担い手に対する土地利用調整を進めている地域や集落営農組織化への取り組みを実践している事例を踏まえて、農地の面的集積のポイントを提示したパンフレットを作成しました。

### ☆技術の概要

1. 農地の面的集積の効果は下記の6点に整理できます。①圃場内の作業時間が削減でき、特に、大区画圃場化と水利条件を整備することでその効果はより大きくなります。②圃場間の移動時間が削減できます。③作業が効率化することで労働費、機械施設費等の削減や作業適期が確保でき品質の維持・向上につながります。④作業面積や作付け単位がまとまることで、水田の畑地的利用、有機栽培、乾田直播栽培等の技術導入が可能になります。⑤合理的な輪作体系が実施でき、畑作物への明渠設置や暗渠施工等が行えます。⑥品種や栽培方法の統一など地域的な土地利用調整を通じた産地戦略の立案が可能になることで契約栽培や品質向上による市場評価の向上につながります。
2. 農地の面的集積の方式は、「農地流動化の進捗状況」と「農地の利用に関する地域的な調整及び合意形成機能（農地調整機能）」の視点から、表1に示すような、5つの類型に区分できます。

3. 農地の面的集積のポイントは、1) 地域における担い手間、担い手と地権者間の調整組織の設立（農用地利用調整会議等）が不可欠です。2) 担い手の相互調整を行う組織を設けます。3) 地権者を組織化します。圃場整備の実施と併せて、集落営農の組織化を図り、主たる従事者の確保や担い手に集落の農地をまとめて委託する方式も考えられます。4) 人・農地プラン等の地域農業ビジョンに基づき農地利用集積を行うマネジメント組織や専属マネージャを確保します。

表1 農地の面的集積方式

分類	農地流動化の進捗状況		
	流動化が遅れている	農地の貸付希望が増えてきている	地域の農地の多くがすでに担い手に集積
農地調整機能	弱い	※	既存圃場に隣接して集積する方式
	中程度	集落営農の組織化を通じて地域的な土地利用調整を実施	転作圃場の耕作を一括して担い手に委託する方式
	強い		担い手毎に担当する集落を決めて集積する方式

注：※はJA出資型法人等の活用が想定できます。

### ☆活用面での留意点

1. 詳細は下記ホームページで無料で公開しています。<http://fmrp.dc.affrc.go.jp/publish/>
2. 2013年12月に新設された「農地中間管理機構」については、現場の動きを整理しつつ、今後提示する予定です。

(中央農業総合研究センター 農業経営研究領域 高橋明広)